

学校教育目標		心豊かでねばり強く正しくたくましく社会を生き抜く生徒を育成する							
--------	--	---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

a ミッション	小中連携教育の充実による系統的で魅力ある教育の実現				a ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ○ワクワクする学校 ○成長し続ける学校 ○規律と温もりのある学校 			
---------	---------------------------	--	--	--	--------	--	--	--	--

尾道市立吉和中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	k 二次評価			m 改善案		
				g 達成値	g 達成値	g 達成値	j 結果と課題の説明	イ	ロ	ハ				
誰一人取り残さない学びの保障をするために、生徒指導と教科指導の一体化した授業改善を進め、生徒の基礎的・基本的な学力の定着と主体的な学びを進める	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり、学習集団づくりを通して、生徒が「分かる」「できた」と感じられ、意欲的・主体的に学習に取り組む態度の育成をはかる。	①「わかる」「できる」授業づくり ・学ぶ必然性のある課題設定 ・ねらいの明確化と流れの可視化 ・生徒の実態に合わせた主体性を引き出す工夫 ② かわり合いの充実 ・思いや考えを伝え合う場面の設定 ・学びの定着するための教え合い活動 ③小中連携 ・小学校との互見授業の実施 ・小中学校合同研修の実施	①②③生徒アンケート「授業で、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる。」の項目のスコア平均値（5段階）	年度初め比+0.2	4.2 (年度初め比+0.1)	4.1 (年度初め比+0)	95.3	B	8			<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある授業の工夫を期待する。 ・小中学校での学力が伸びていないことも授業が成立していない一因だが、授業中の問いかけや、やったらできたと思わせる授業も多くなってきているが、小手先の対応になっていないか。 ・授業参加について、保護者の参加率の向上を図り、授業の実態を見学してもらうとはどうか。小中連携について、引き続き連携教育、情報共有を続けてほしい。 ・目標達成に向けた先生方の取組と生徒の授業に向けた意欲とのギャップを縮めている。スタートラインに立つまでの準備をさせるのが大変。先生方の指導力と取組以前以前の課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校がこれまで大切に、継続してきたユニバーサルデザインの考え方を教職員全体で再度学び直し、なぜ必要なのかを共通認識としてもった上で、研究体制をつくる。 ・授業に参加していく生徒を取り残さないために、興味関心や理解度を把握し、「やってみよう」と思えるような授業づくりを進める。 ・生徒指導と学習指導の一体化した授業づくりを基本に、生徒指導の実践上の4つの視点を意識して、誰とでもかわり合うことができるように、話し合いやモデル授業を推進し、意欲的なかわり合いの場の設定をしたりするなど、集団づくりの取組を行う。 	
	家庭学習の習慣化や繰り返し学習と、個別最適な学びや協働的な学びを進め、基礎的な知識・技能を定着させる。	①基礎基本の徹底を目的とした「がんばり」学習の充実 ②「がんばり」と運動した小テストの実施 ③生徒の必要感に応じた学習部屋の設置および補充学習の実施	①②小テストの平均通過率 ③生徒アンケート「授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。」のスコア平均値（5段階）	①② 通過率 ③ 年度初め比+0.2	①0 71.7%	①0 70.3%	②0 0	③ 4.2 4.1 (年度初め比+0.2)						88.4
生徒の主体的な絆づくりを推進し、積極的な生徒指導を進め、安全・安心な温かい人間関係を構築し、生徒の「本気」を引き出し、豊かな心を育てる	教育相談、道徳教育を充実させ、生徒に響く深いねばり強く心に寄り添った生徒指導に取り組む、行きたい学校づくりを進める。	①学年担当・生徒指導主事・教育相談コーディネーターで細かな情報共有を行い、月に1回ケース会議を実施して、次月の取組を決める。 ②担任以外の教員との全員面談、SCによる全員面談などを通して教育相談機会の充実を図る。また、ソーシャルスキルトレーニングや道徳教育による相互理解により、相談する力の育成を図る。	①長期欠席生徒	① 5人以内	① 3人	① 6人	98.4%	B	8			<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席生徒にも理由があると思うので、それをまず理解してあげることが大切だと思う。 ・自分の未来を歩き回っている生徒を、美しい未来に向く方法を巻き込み考えてほしい。信頼できる人がいことは思春期の特長であるが、大人を信頼する必要があるのではないかと感じる。大人を信頼していないことは問題解決につながっていない。 ・長期欠席対応について、SCを中心に本人及び家族との直談判の継続や関係機関との連携を進める。 ・不登校生徒は7月より増えているが、前年よりはは少なくなりそう。保護者を巻き込んで理解を得られればよいのだが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席対応について、SCや関係機関との連携を本人及び家族に進めたり、アンケートを活用した全員面談の機会を充実させる。 ・日々の生徒の様子を見取り、それらを教員同士と共有して、より深い生徒理解をしっかりとすることで、生徒の心の変化に敏感に対応し、生徒との人間関係を構築する。 ・自分の将来を考えた、高等学校について知る機会を設けたりすることで、自分ごとのような特徴（長所）があるのかを考えた取組を行う。 	
	学校行事や生徒会活動など体験学習（特別活動）を充実させ、生徒の「本気」を引き出し自己指導能力を育成するために、集団づくりを進める。	①生徒が自分たちで考え、全校生徒がよりよい学校作りに関わることができる行事計画や生徒会活動を行い、生徒の本気を引き出す。 ②生徒の頑張りや達成感を通して共有し、リーダーの思いや生徒1人1人の目標を共有できる機会を増やす。	①生徒アンケート「学校行事に本気で取り組んでいます。」の項目 肯定的評価	①② 95%	①② 94.9%	①② 96.1%	①② 101.2%	A						8
教育活動の核とした身に付けた力を様々な場面で発揮させ、生徒同士、保護者や地域、教職員と響き合う	吉中太鼓で地域や学校、自分に誇りを持たせ、日常生活や将来に繋がる心や所作を育てるとともに、感謝の気持ちを持てる行動で表現できる生徒を育成する。	①吉中太鼓の活動を通じて、自分たちで課題解決する場面を充実させることで、日々の学校生活の中の課題も解決できる生徒を育成する。 ②太鼓取組の中で、礼儀作法や吉中太鼓の歴史や伝統を継承させることの重要性を理解する。	①生徒アンケート「日々の課題を自分の力で解決しようとしている。」 ②生徒アンケート「吉中太鼓の授業に意欲的に参加しています。」の項目 肯定的評価	① 90%	① 91.0%	① 88.2%	① 98%	B	7	1		<ul style="list-style-type: none"> ・仲間とのきずなが深め合える吉中太鼓はすばらしいと思う。 ・他方本筋で自力で問題解決しようとしていない。指示待ちの傾向が懸念されているように思う。以前とは違い、吉中太鼓だけでは生徒の意欲を引き出すことが難しい時代になってきているのではないかと。 ・吉中太鼓について、団体行動は、社会の一員となつて責任を身に付ける機会を充実させる。 ・今後のため吉中太鼓を充実させていくの考えを、その中で吉中中学校の伝統を引き継ぐ意欲や地域とのつながり、集団行動の重要性や社会の一員としての自覚、礼儀作法、などを考えたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で課題に取り組むことや全体を俯瞰してみることで各自が自分のことだけに集中してはいないか。組織としてまとまりがあるか。 ・学校運営について、学校は事務職員及び教職員が一体となって運営を行う必要がある。また、生徒もその一つである。生徒の協力も必要だと思う。 ・先生方もより頑張ってもらいたいと思うが、特定の教員に過重にならないよう。 	
職員のワークライフバランスを確立しやりがいをもち働ける	働業とならないよう、情報共有をはじめ積極的にコミュニケーションを図りながらチームで動き、職員がお互いに頼みやすい職場づくりに進めるとともに、長時間労働を解消する。	①日々の情報共有を密にし、学校経営会議、分掌会、学年会等を充実させることを通じて、主任主事を中心としてチームで動く。 ②市教委実施の働き方改革アンケートの質問項目「日々の業務の中で充実感を得られている」「管理職や主任・主事は、教職員の業務の進捗状況を把握し、必要に応じて業務分担の見直しや調整調整等を行っている。」の項目 肯定的評価	①② 80%	①② 46.7%	①② 58%	①② 72.5%	C	7						1

【自己評価 評価】
A: 100≧(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80≧(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】
イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: わからない。